

令和6年度当初予算記者発表

令和6年2月14日

大山崎町長 前川 光

皆様、こんにちは。大山崎町長の前川 光でございます。

本日は、「令和6年度(2024年度)大山崎町当初予算案記者発表」のご案内を差し上げましたところ、皆様方には大変お忙しい中を、お集まりいただき誠にありがとうございます。

また平素は、大山崎町政に対しまして、何かとご理解とご協力を賜っておりますことに、この場をお借りいたしまして、心から厚くお礼申し上げます。

それでは、来たる新年度の当初予算案の概要につきまして、お手元の資料に基づき、ご説明申し上げます。

私が町長に就任して、本年で、町政2期目、6年目に突入し、通年予算としては、今回が6回目の予算編成となりました。

私は、生まれ育った、愛すべきこの大山崎町を、さらにいっそう住みよい町にして、住民の皆様の「心のふるさと」を、ほかでもない住民の皆様とともに作り上げていきたいという強い思いのもと、この間、まちづくりに尽力してきたところでありますが、その思いを具現化するために、町長就任以来、私が一貫して主張しておりますのが、「住民参加のまちづくり」であります。

令和6年度予算についても、引き続き、この「住民参加のまちづくり」を土台とし、基本的なテーマを「住民とともに 明るい未来をつくる」としました。

これは、二期目のスタートとなった今年度の基本コンセプトである

「「挑^{いどむ}」住民とともに 明るい未来をつくる」を継続してテーマとするものでございます。

私は、就任一期目の4年間の任期の中で実現すべき政策目標として、「住民とともに歩むまちの創造」を設定し、住民参加のまちづくりに取り組んでまいりましたが、それを継承し、さらに進化させ、住民参加のまちづくりに取り組んでまいります。

お手元資料の2ページをお願いいたします。

令和6年度の予算編成にあたっての基本コンセプト
を

「^{みのる}実」 個性と魅力が光る 共創のまちづくり
といたしました。

先にも申し上げましたが、私が町長に就任して6年
目を迎えます。

これまで、時には壁にぶつかりながらもひとつずつ
問題を解決し、施策の実現に向け、着実に歩みを進
めてきました。

これまでに^ま蒔いてきた種が芽を出し、実を結ぶとき
であるという思いを「^{みのる}実」という文字に込めたものであ
ります。

いま、全国の自治体は、少子高齢化や公共施設の老朽化といった様々な困難に直面しており、大山崎町も決して例外ではありません。

幸いにして本町では近年、若年層を中心に人口が増加傾向にあります。今後この傾向を維持していくためには、個性的なまちづくりが不可欠であると考えております。

他の自治体と同じことをしては、生き残ることはできません。

大都市近郊に位置して生活の利便性が高く、その一方で自然も豊かな町であるという点が、多くの方に選ばれている理由で、このまちの、「強み」とであると分析しております。

こうした本町のキラリと光る個性をさらに磨きながら、住民の目線に立ち、住民の皆様とともに、これまでから取組を進めてきた協働によるまちづくりをさらに深めて、新たな価値や仕組みなどをともに創っていく「共創」のまちづくりを進めてまいります。

そして、人口が増加傾向にあるこの機に、将来を担う子育て世代に訴求する施策を充実させることで、より多くの人をこの町に呼び込み、税込等の増加、住民参加の様々な施策の展開等によって地域を活性化させ、さらに町の魅力を高め、そのことで引き続き若年層の人口を増加させるという好循環を作り出したいと考えております。

次のページをご覧ください。

令和6年度当初予算の編成にあたっては、特に力を入れていく3つの重点施策を定めております。

まず、1つ目として、「子育てのまち」であります。

天王山と淀川の自然に恵まれた特色を生かして、「自然豊かな子育てのまち」をスローガンに掲げて、子育て世代に選ばれるまちづくりを進めており、令和5年度は、念願の自校方式による中学校給食の開始に続き、大山崎小学校、第二大山崎小学校の給食棟を改修いたしました。

また、昨年9月からは高校卒業までの医療費実質無償化にも取り組み、子育て環境の充実を着実に進めてまいりました。

引き続き、さらなる付加価値を追求し、都市部にあって自然が豊かである本町の、環境面での強みも生かして、若年層をさらに呼び込むため、訴求力の高い子育て支援策を、重点的、集中的に実行いたします。

また、私の公約である、「公民館の建て替え」についても、施設の改築整備基本計画の見直しにかかる関連予算を盛り込み、着実に進捗を図ってまいります。

次に、重点施策の2つ目として、「健康のまち」であります。

団塊の世代が順次、後期高齢者となる現在、直近に控えております 2025 年問題のみならず 2040 年問題をも見据えた対策が急務となっております。

高齢者の地域での関わりの場・活躍の場を創出することで、高齢者の活力向上を推進するとともに、地域の活性化を図ってまいります。

また、高齢者のみならず、あらゆる世代に対しても、天王山をはじめとした本町の豊かな自然等を活用するなど、生涯にわたり活躍できる「健康長寿」を増やすため、実効性のある施策を展開してまいります。

最後に、重点施策の3つ目として、「環境のまち」であります。

令和2年9月に表明した「ゼロカーボンシティ宣言」に基づき、脱炭素に効果的な政策を推進してまいります。

なお、その推進には住民一人一人の意識向上が不可欠でありますので、「住民参加で脱炭素」というスローガンを掲げており、環境問題を「自分ごと」と捉えて積極的に行動していただけるよう、有効な手法の検討も含め、関連する具体的施策を加速させてまいります。

次のページをご覧ください。

これら3つの重点施策を積極的に実施する予算を編成し、一般会計総額は、68億4,418万3千円で、令和5年度との比較ではマイナス0.4%の^{びげん}微減であります。

なお、一般財源ベースでは、令和5年度から、4.1%の増となっております。

これらの要因といたしましては、令和5年度において実施した、両小学校の給食棟整備や、役場庁舎空調機器整備などの、いわゆるハード系の大型事業が減少した一方で、令和6年度は社会保障関係経費や人件費等、いわゆる義務的経費が増加したことによるものであります。

次のページをご覧ください。

各特別会計も含めた予算総額は、合計 118 億 4,566 万 5 千円であります。

次のページをご覧ください。

予算推移として、過去5年間の一般会計および特別会計、企業会計の推移を表示しております。

次のページをご覧ください。

ここからが個別の事業であります。先ほどご説明いたしました「重点施策」のうち、まずは、1つ目の重点施策である「子育てのまち」に関連する事業であります。

まず、新規事業として、大山崎中学校給食費公会計化事業 3,169 万 9 千円あります。

大山崎中学校において、令和5年度当初から実施しております、学校給食の会計について、公会計化するものであります。

なお、生徒の給食費は無償とし、相次ぐ物価高騰で負担の増えている子育て世帯の負担軽減を図ることといたします。

次に、子育て支援医療費助成事業 8,666 万円であります。

子どもの医療費について、1カ月1医療機関 200円を超過する額を助成し、医療費を実質無償化するものですが、これまでは中学生までを対象としていましたが、昨年9月から、対象を高校生まで拡充しており、令和6年度からは通年で実施するものであります。

次のページをご覧ください。

産後ケア事業 23万8千円であります。

産後に心身の不調や育児不安のある人に、アウトリーチ、いわゆる訪問型の産後ケア事業を実施する医療機関、助産所等を活用し、支援を行います。

なお、ショートステイ、デイサービス型の産後ケア事業は令和5年度から実施しております。

次に、1か月健診事業 103万5千円であります。

出産後から切れ目のない健康診査の実施体制を整備し、健康診査の結果等の情報の活用などにより、伴走型相談支援の効果的な実施に繋げるものであります。

その下は、出産・子育て応援事業 1,903 万 5 千円です。

妊産婦^{にんさんぶ}及び子育て家庭に対し、子育てに係る経済的支援として、出産応援ギフト、子育て応援ギフトをそれぞれ5万円支給するとともに、伴走的相談支援を一体的に実施し、子育て家庭の負担を軽減するもので、令和4年度からの継続事業です。

次のページをご覧ください。

町立保育所デジタル化推進事業 130 万 8 千円です。

保育に関する計画・記録作成機能のほか、児童の登園・降園管理や保護者への連絡機能を備えたシステムを導入し、保育の質の向上を図るものです。

次に、町立保育所施設改修事業 1,772 万 1 千円であります。

町立各保育所の老朽化した設備について、改修・更新を行い、良好な環境整備を図るもので、

上から

大山崎保育所では、保育室床修繕、通路のコンクリート舗装の費用として、67 万円

第2保育所では、給食リフト改修、プールサイドシート修繕、電話機更新の費用として、220 万 1 千円

保育所3園のトイレ改修に係る工事の設計費用として合計で 1,485 万円を計上しております。

次のページをご覧ください。

民営放課後児童クラブ設置事業 5,547 万円あります。

その内容として、まず、民設放課後児童クラブ施設整備費補助事業 2,892 万 6 千円は、社会福祉法人等が放課後児童クラブ施設を整備する費用を補助するものであります。

次にその下、放課後児童健全育成事業費補助事業 2,654 万 4 千円は、社会福祉法人等が放課後児童クラブを運営する費用を補助するものであります。

これらの事業により、放課後児童クラブ待機児童「0」の堅持とともに、選択肢を増やすことで、子育て世帯への訴求力をさらに高めてまいります。

次のページをご覧ください。

11 ページからは「重点施策」の2つ目の「健康のまち」に関連する事業であります。

まず、健康運動教室開催事業 51万9千円であります。

健康運動指導士の講義、ウォーキング、ヨガ、ストレッチなどを月替わりで実施し、健康を意識することで生活習慣の改善を目指すものであります。

合わせて、歯の広場、骨密度測定、ベジチェックなどのイベントも開催し、口腔フレイル予防や骨折予防、野菜不足による生活習慣病の予防にも繋げてまいります。

次に、シルバー大学開催事業 4万8千円であります。

高齢者のニーズに合った知識欲を刺激する講座を開催し、高齢者の活力向上を推進するとともに、長寿苑のさらなる活性化と、参加する利用者間のつながりを深めるもので、令和5年度においても試行的に実施しており、大変好評でありますので、回数を拡大して実施するものであります。

次のページをご覧ください。

天王山整備事業 1,495 万 9 千円であります。

町のシンボルである天王山を気軽に登れる健康維持にぴったりのスポットとして安心安全に楽しめるよう整備を進めるものであります。

その内容として、まず、天王山ハイキングコース補修事業 1,000 万円、天王山山頂眺望確保事業 295 万 9 千円であります。

これらは、令和3年度に策定した天王山ハイキングコース整備基本構想に基づき、老朽化が目立つ箇所を修繕し、安心安全なハイキングができる環境整備や山頂からの眺望を遮っている樹木を伐採し、眺望整備を進めるものであります。

次に、新規事業として、バイオトイレ設置事業 200 万円であります。天王山山中に、環境に配慮したバイオトイレを整備し、自然環境を守りながら登山者の利便性を向上させるもので、住民有志の団体からいただいた寄附を財源とするものであります。

次のページをご覧ください。

13 ページからは、「重点施策」の3つ目の「環境のまち」に関連する事業であります。

まず、一般家庭環境対策事業 314 万円であります。

ゼロカーボンシティ宣言を表明した本町において、「住民参加で脱炭素」のスローガンのもと、住民参加型の環境対策を推進するもので、

まず、上から、

省エネ窓リフォーム補助事業 100 万円は、二重窓の新設など、住宅窓の断熱改修に係る費用について補助金を交付するものであります。

次の、家庭用燃料電池システム設置補助事業 25 万円は、家庭用燃料電池システムの設置に係る費用について補助金を交付するものであります。

続いて、生ごみ処理機購入補助金 54 万円、住宅用太陽光発電システム設置補助金 135 万円は令和5年度以前からの継続事業となっております。

次のページをご覧ください。

アップサイクル(花と緑のまちづくり)事業 48 万円
であります。

住民から回収した古着を加工して作られるポリエ
ステル培地を活用し、花と緑を楽しむ住民を広げる
アップサイクル事業を令和5年度から開始しており、
令和6年度はさらに事業を拡充し、住民参加による
花と緑のまちづくり活動を推進するものであります。

以上が重点事業であります。

次のページからが、その他の事業として「まちづくり
関係」、「デジタル化関係」、「社会資本関係」、「防
災関係」、「教育関係」、「文化・国際交流関係」、
「物価高騰対策関係」の各分野の、主要事業を掲
載しております。

その中から、主なものをご紹介します。

15 ページをご覧ください。

まちづくり関係の事業であります。一番上、新規事業として、複合化施設基本設計見直し業務委託事業 1,000 万円であります。

大山崎町議会複合施設特別委員会の提言を受け、令和4年度に策定した中央公民館改築整備基本計画を見直し、老朽化する他施設との複合化を早期に進めるものであります。

17 ページをご覧ください。

デジタル化関係の事業であります。一番上の、新規事業として、町議会映像配信事業 18 万 6 千円あります。

住民が議場に出向くことなく、好きな時間、好きな場所で議会の模様を視聴できるよう、映像配信するためのシステムを構築し、議会活動を、より身近に感じていただくものであります。

次に、2つ目の、LINE 決済サービス活用事業 13 万 7 千円であります。

令和5年度より、町公式 LINE において、オプション機能を使った各種申請や申込、通報を受けられるようにしておりますが、そのうち、料金が発生する申請等について、オンライン決済サービスの導入により、LINE 上で完結できるようにし、行政のデジタル化をさらに促進するとともに、住民の利便性向上を図るものであります。

19 ページをご覧ください。

防災関係の事業であります。一番下の、子ども防災キャンプ(子ども防災士養成講座)事業 30万円です。

児童・生徒を対象に体験的な防災教育事業を実施し、災害に対する知識や実践力を身に付け、防災・減災意識の醸成を図るものであります。

20 ページをご覧ください。

教育関係の事業であります。一番下、新規事業として、通学路整備事業 1,035 万 8 千円です。

鳥居前配水池場内に、第二大山崎小学校につながる通学路を整備し、児童の安心・安全な登下校経路を確保するものであります。

22 ページをご覧ください。

物価高騰対策関係の事業ではありますが、物価高騰対策事業 3,009 万 1 千円であります。

物価高騰等の影響を受ける住民等に対する支援として、水道料金1期分の基本料金の全額免除等を行うものであります。

この他にも、昨年10月に、マクセル株式会社の敷地内にオープンした「アート&テクノロジー・ヴィレッジ 京都」や 2025 年 4 月に開催を予定されている大阪万博について、今回の当初予算では関連経費を計上しておりませんが、具体の事業内容が固まった段階で、必要に応じて補正予算を編成して対応することといたします。

最後に、「おわりに」ということで一言申し上げたいと存じます。

先ほども申し上げましたとおり、幸いにして昨今、本町では子育て世代の流入が増えており、若年層を中心とした人口が増加傾向にあります。全国的な傾向を鑑^{かんが}みますと、いずれは少子高齢化のさらなる進展、そして人口減少は不可避であります。

そのことに伴う社会保障関連経費の増加による将来の財政運営については、率直に申し上げて憂慮^{ゆうりよ}しているところでありますが、一方で、先送りされてきた都市基盤整備や公民館、学校施設等の老朽化対策は、まったなしの状況であります。

一方で、本町の税収は、企業の業績等の影響を受けやすく、先の見通しを立てることが大変困難であります。

今回の予算編成に当たっては、町民税の減収を見込みつつ、特定財源の最大限の活用によって、基金の取り崩しは、約2億3千万円にとどめておりますが、将来負担は確実に上積みされますし、我が国全体の^{すうせい}趨勢を^{かんが}鑑みましても、決して先行きを楽観視できる状況ではありません。

しかしながら、だからこそ、住民の皆様とともに明るい未来を切り開くために、今できる最善の策を講じようとするものであり、その財源を捻出するために、「スクラップ・スクラップ&ビルド」により、今回の予算は切り詰めるべきものは、とことん切り詰めており、必ずや、この町の持続的な発展という形で、実を結ぶものと確信しております。

私は、今後も柔軟に時代の変化に対応し、先行きを見極めて、住民の皆様とともに、共創のまちづくりを展開してまいる所存であり、愛すべき、この大山崎町のために、挑戦を続けてまいりますので、皆様方の更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。令和6年度当初予算案に係る説明とさせていただきます。

6,988 文字（約 25 分）